

札幌の障がい者就労支援の最前線をお伝えする

さぽサポ

札幌市自立支援協議会就労支援推進部会広報誌



発行日:平成 27年1月30日

就労支援推進部会のなりたち

就労支援推進部会は、障がいのある方(身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいなど、手帳の有無に関わらずあらゆる障がいのある方を指す)、障がい福祉事業所、行政機関、企業、その他市内の様々な事業者との連携と市民の理解のもとに、障がいのある方が主体的に一般企業で働く、働き続けることができる地域を目指し、ひいては誰もが働きやすい社会にすることを目的としております。(就労支援推進部会規約より抜粋)

本部会は、平成 21 年に就労支援推進会議という名称で準備活動をスタートし、翌年 4 月に札幌市地域自立支援協議会の専門部会の 1 つとして設置されました。現在、本部会に登録している構成員(事業所)は 82ヶ所あります。

これまでの活動内容は、年度のはじめに開催している定例会(構成員参加)をはじめ、事業提案(地域課題を共有し札幌の施策への反映を含め協議検討)、研修企画(各種研修の企画運営)、広報(部会活動を周知する広報活動)の 3 つのワーキングチームを設け活動しています。

これからも各事業所間での顔が見える関係づくりを進め連携を強化し、支援方法等の情報共有化などにより各事業所が抱える課題の解決と、目の前にいる障がいのある方の就労機会の拡充を目指して参ります。



札幌市自立支援協議会 就労支援推進部会 活動報告

平成26年度定例会

平成 26 年 5 月 23 日(金)札幌市役所12階会議室にて「平成26年度札幌市自立支援協議会就労支援推進部会定例会」を開催し、市内の相談支援事業所、特別支援学校、就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所、企業などから 72 機関 119 名が参加しました。

前半「就労支援推進部会の昨年度の活動報告と今年度の予定」の説明があり、相談支援部会杉田誠部会長から、就労系障がい福祉サービスを利用する場合に義務付けとなったサービス等利用計画の仕組みや流れについての説明と、相談支援事業所の活動内容についてお話をいただきました。

その後、参加者は同じ区ごとのグループに分かれ相談支援事業所の相談員を中心に、相談支援事業所に関するディスカッションを行い、お互いの事業についての理解を深めました。



就労移行支援タウンミーティング

平成 26 年 6 月 27、28 日の 2 日間にわたり就労支援のあるべき姿と現状を共有し、これからの就労移行支援事業のあり方についての意見交換の場としてタウンミーティングが開催されました。(主催：全国就労移行支援事業所連絡協議会) 社会福祉法人加島友愛会 Link 酒井大介 氏ほか全国、地元北海道の講師・コメンテーターから発表がありました。

福岡、大阪、東京に続き札幌での開催となり、1 日目は 130 名が参加し就労移行支援事業所における役割と支援内容・定着支援についての講演があり、2 日目は 132 名が参加し行政説明・地

域の実践報告があり、その後意見交換会をしました。地域の実践報告では 3 つの事業所から『札幌発これからの就労移行支援事業を考える』をテーマとした取り組みと事例報告があり、就労移行支援事業所と就業・生活相談支援事業所が就労相談、アセスメント、マッチングなどのテーマごとに発表がありました。

JC-NETジョブコーチ養成研修 in 札幌

8 月 2 日(土)~7 日(木)の 6 日間にわたって札幌市産業振興センターを会場として「平成 26 年度 JC-NETジョブコーチ養成研修 in 札幌」が開催されました。

ジョブコーチとは「職場適応援助者」の別称で、配置型ジョブコーチ(障害者職業センターに配置)、第 1 号ジョブコーチ(障害者の就労支援を行う社会福祉法人等に雇用される職員)第 2 号ジョブコーチ(障害者を雇用する企業に雇用されている職員)の 3 種があり本研修は、第 1 号・第 2 号ジョブコーチの養成研修でした。

研修は NPO 法人ジョブコーチ・ネットワーク小川浩代表らの講師陣による 2 日間の座学、4 日間の演習、現場実習 1 日の内容でした。受講者は 42 名(1 号:35 名、2 号:7 名)、講師・トレーナー・実行委員が 36 名の総勢 78 名が参加しました。受講者は道内の他、新潟、青森からも参加されました。

懇親会では、講師・トレーナー、先輩ジョブコーチと交流する機会があり、今後の活動に必要なネットワーク作りができた様子です。

実習 4 日目の終わりには、チーム名「かけはし 28」(会期名)が発表され、最終日は 23 箇所の実習先に分かれて現場実習を行い、全日程を終了しました。

後日、受講者全員から職場実習レポートが提出され、無事全員に修了証が発行されました。



その他の活動

他にも平成 26 年度は、就労継続支援 A 型事業所へのアンケート調査の実施や札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるとの共同企画研修『発達障がい者の就労支援勉強会』開催等、多岐に渡り活動しました。



就労移行支援事業所

障がい者就労サポートセンター

ぱすとらる



ぱすとらるでは、様々なプログラムや職業体験を通して、利用者様お一人お一人の自信構築を目指すと共に、自らの得意・不得意を踏まえた上での「自分にあった仕事」探しのサポートを行います。

プログラム 軽作業(箱折り、シール貼り、フレーム制作作業等)
職場実習(事務補助、リサイクル分別、軽作業、カフェ運営等)
就労プログラム(マナー講座、就職活動対策)
サークル活動(OBも含めた余暇支援、喫茶店巡りやスポーツなどの趣味活動) 職場定着支援

定員 20名

スタッフ 8名配置 社会福祉士：3名
第1号ジョブコーチ：2名
心理アロマアドバイザー：1名

メッセージ ゴールは「就職すること」ではなく、就職して「働きながら自分がイメージ(希望)する生活をおくること」。
利用者様お一人お一人のそのイメージを大切に、日々の支援を行っていきたいと思っております。

住所 札幌市北区北 37 条西 4 丁目 3-12 藤井ビル北 37 3 階

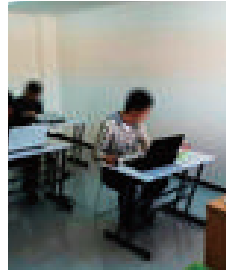
連絡先 TEL：011-769-9737 FAX：011-769-9760
MAIL：info@npo-pastoral.com

オススメポイント

地元麻生商店街とのコラボレーションにて、利用者様と一緒に空き店舗を活用した喫茶店の運営を行っています。(毎週月・火曜日夜) 就職したOBメンバーが、勤務後に立ち寄れる交流の場となっています。



カフェ



作業風景



OB会

障がい者雇用を通して 企業づくりを考えるフォーラム

記者
体験記

去る平成 26 年 11 月 18 日に開催された「2014 障がい者雇用を通して企業づくりを考えるフォーラム」に参加させていただきました。フォーラムでは、北海道札幌高等技術専門学院からの障害者委託訓練の案内や、株式会社特殊衣料からの障がい者雇用に関する事例報告、横浜市立大学都市社会文化研究科の影山摩子弥教授による講演が行われました。影山教授の講演では、「人を生かせば会社も元気～障がい者とともに歩むという戦略～」をテーマとし、障がい者雇用における雇用のポイントや業務改善のポイントなど障がい者を一人の戦力として生かす取り組みについて語られ、企業・当事者・支援者にとって大変貴重な話を聞く機会となりました。

チングにより、商品化された作品の価値を向上させ、それらが作り手である施設の工賃向上、ひいては積極的な社会参加や満足感へ繋がっていくことを目的としています。

数々の応募の中からマッチングされたのは、パンの製造・販売店舗の店舗設計を募集した「ひかり工房」、ユニバーサルデザインのヒノキ製ハンドルのアイデアを募集した「工房ウッディートイズ」、ジュエリーのような木製装飾品のデザインを募集した「札幌クローバー会」の3事業所です。それぞれがクリエイターのユニークなデザインとマッチングされ商品化が進められています。平成27年度からは本格的に売り出していくことを目標に現在奮闘しています。

元気デザイン向上事業

現在、札幌市では、「元気デザイン向上事業」という「障がい者とクリエイターが協力して自由な発想でものづくりをする取り組み」を行っています。市内の障がい者施設で働いている方々の丁寧で繊細な作業を多くの方々に知ってもらい、デザインとのマツ

この事業の取り組みについては、同事業内ブランド「☑☑(ますます) 商店」のホームページ (<http://masumasu-shoten.net/>) で進捗状況をご覧いただけます。このように商品づくりのプロセスを公開することで、この事業に参加していない施設の人たちにも「ものづくり」の重要性を意識していただき、普段の活動の中で「工夫すること」を考えてもらえれば、それこそが、この事業が目指す本来の効果となります。

元気ショップが移転しました!

『元気ショップ』が、平成26年12月8日に地下鉄南北線大通駅コンコース内に移転しました。大通交流拠点地下広場を眼前に構え、よりみなさまにご利用いただきやすい店舗を目指します。

【元気ショップ】
札幌市中央区大通西3丁目
TEL:011-210-1147 FAX:011-210-1211
営業時間:8時～20時(土日祝:10時～19時)

